

高瀬神社 社報

越中一宮

第67号

越中高瀬神社
一宮

令和2年9月13日

<https://www.takase.or.jp/> 撮影：南部スタジオ

『文化の継承』

宮司 藤井秀嗣

新型コロナウイルス感染症の蔓延が現在も続いています。東京オリンピック・パラリンピックをはじめとする世界的なイベントから、身の回りの小さな会合まで、人が集うあらゆることが中止、または延期になっていきます。そこに関わる多くの人が影響を受け、様々な危機に陥っています。

神社界でも例年開催されている総会や研修会など、全国規模のものから県市町村レベルのものまで、ほとんどが中止されています。議決が必要な会議の場合は書面決議となりました。会社の会議や大学の講義がオンラインで行われているように、神社もインターネットを使つての会議に環境を変えていかねばならなくなつてきています。このようなことは、喫緊の課題ではありませんでした。

コロナ禍によって氏神様のお祭りも様子が変化してきました。神前の儀式だけは行い、御神輿や獅子舞などの神賑行事は中止、または規模を縮小するな

ど、形を変えて斎行されています。これからは秋祭り本番となり、十一月には新嘗祭や七五三詣、その後には初詣という重要な祭事がやってきます。政府から「新しい生活様式」が提案され、「三密」を避けるべく、拝殿の席数を減らし、間隔をあげ、遮蔽スタンドを設置、入口には消毒液を置くなど、当神社として、出来る限りの対策を施しています。拝殿の風景としては、これまでに馴染みのない様子となっております。

先日、裏千家茶道を嗜んでおられる方から、コロナ禍での活動に苦心されてお話を伺いました。感染防止のために衛生管理が優先され、伝統の作法を変更し、新しい作法も取り入れて、稽古を再開したそうです。神社のお祭りやご祈祷も対策を迫られ、先に書いたように厳かな雰囲気が増え、形もなっています。伝統文化という分野では、同じ悩みがあり、このような状況が続くと、長い時間をかけて継承されてきた日本

の伝統文化が廃れてしまうのではないかとという危機感を強くしています。

外出を自粛して、社務所で書類整理をしていた折、平成十二年六月十一日発行の地元紙に、今は亡き狂言師 五世野村万之丞氏が執筆された『万之丞の萬狂言曼茶羅』というコラムの切り抜きを発見しました。そこには「文化の伝承」ということが書かれていて、「形変えても心は守る」と見出しがつけられました。

記事内容は、日本人は昔から他の文化を受け入れ、ミックスして日本風に作り上げる力を持っていた。そして、作り上げた文化の形は変つても元々の心は伝える。つまり日本人は、「文化とは形を変えながら心という本質を伝えるもの」であると捉えている。一般的に文化は形を変えずに守るものというふうには考えがちだが、守ることに専念すると必ずそれは滅びる。後生長く生き続けるためには、その時代によって無駄なもの捨て、必要なものは残すという取捨選択がなされてきた。そして、どうしても伝えなければならぬ物事は、時代にに応じて形を変えながらその本

質を伝えてきた。と書かれています。

今はまさにコロナ禍によって、いろいろな伝統文化の形が変えられる事態となっておりますが、これを守るために伝統の形を頑なに守り、対策を疎かにして強硬に進むより、これまでの形に多少の変更があったとしても、その本質を伝えることを第一に考えて、時代に合わせた形を進めていくほうが、多くの人に受け入れられ、その結果、心という本質を守り、繋いで次の時代に継承できるのではないかと思います。

当神社においても、古来、日本人が守り伝えてきた「敬神崇祖」という本質を後生長く伝えるために工夫と努力を重ね、この難局を乗り越りたいと存じます。

氏子崇敬者の皆さまには、この状況をご理解いただいて、長い目で、温かく、これからも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

万之丞氏いわく、「冗談のような話だが、形を変えて心を伝えればすべての文化は必ず甦る」。

祭事暦

高瀬稻荷社例祭



六月三十日午前十時、末社「高瀬稻荷社」例祭を斎行しました。高瀬稻荷社は、京都・伏見稻荷大社より勧請され、商売繁盛の神様として崇敬されています。本年は雨天の為、参集殿前にて祭典を執り行ない、また、感染拡大防止の為、関係者にご参列を自粛いただく形での祭典となりました。稻荷社例祭に続き御本社にて「商売繁昌祈願祭」を斎行し、講員各位の商売繁昌・社運隆昌・職場の安全を祈りました。

夏越の大祓

六月三十日午後三時、「夏越の大祓」を執り行いました。大祓は、心身の穢、諸々の罪、過ちを祓い清める神事です。

当日、拜殿にて一同「大祓詞」を奏上し、各人が罪穢を移した「人形」を「茅舟」に収めた後、「茅の輪」をくぐり境内の傍らを流れる大門川に祓い流しました。

「茅船」「茅の輪」は、毎年氏子の皆様に奉製して頂いております。



除熱祭



献穀田にて

七月二十一日午前十時、農作物が無事に夏を乗り切り、豊かに稔るよう祈念する「除熱祭」を斎行しました。

祭典後、お祓いした御幣を当神社献穀田（南砺市 南山見交流センター前）に立て、稲の清め祓いを行いました。

また夕刻には、氏子太鼓連による「熱送り太鼓」が高瀬の地を練り歩きました。



氏子太鼓連による「熱送り太鼓」

人形感謝祭

七月二十五日午前十時、古くなった人形に感謝し、お焚き上げをする「人形感謝祭」を斎行しました。

今年で二十一回目を迎えた祭典には、多くの方がお参りされました。時節柄、家の中を整理される機会も多かったことから、例年以上の人形が奉安場に並びました。



夏詣

七月一日から「夏詣」を開催しました。

「夏詣」は、「夏越の大祓」において、罪穢を祓い清めた翌日から参拝し、半年が無事過ぎたことに感謝します。そして、残りの半年の平穏を祈る行事です。境内には、七夕飾りに加え、夏の風物詩である風鈴の音が涼やかに響きわたりました。



七夕祭並技芸上達祈願祭

夏詣終了奉告祭

七月七日午後三時、七夕にあわせて織姫様のはた織り・裁縫上手にあやかり、習い事が上達するよう祈願する「七夕祭並技芸上達祈願祭」を行いました。本年は新型コロナウイルス感染症の流行も重なり、七夕の短冊には、一日も早い事態の終熄を祈念する内容が多く見受けられました。

また、夏詣終了奉告祭を執り行い、無事に「夏詣」を終えたことに感謝しました。

『大輪あさがお展』開催

毎年好評の「大輪あさがお展」が、八月八日～十日にかけて境内で開催され、多くの来場者で賑いました。

本年も、南砺あさがお会（森田光正会長）主催のもと、会員の皆様が日頃から丹精を込めて育てられた「大輪朝顔」が参拝者の目を楽しませました。



第二十回 人形展

第一期一会

「こもれびの杜に咲く」
いけばなと人形たち

七月二十四日(金・祝)～
二十六日(日)

木彫や和紙・陶製の人形を掛ける、県内の作家十五名の創作人形や、草月流富山県支部「秀抱会(梅崎秀鈴会長)」による「いけばな」が会場を彩りました。

感染症の影響により、来場者の減少も心配されましたが、会場を飾る作品の魅力に触れようと、例年以上の皆様で賑わいました。

※感染症対策の為、体温測定、手指の消毒の推奨・換気などを実施しました。ご協力頂きありがとうございます。

▽監修

梅崎 親美

(秀抱)

▽銘木材提供

嶋田工芸

▽工芸家具提供

南部 進

▽写真提供

荒井 恒雄



飛驒山静恵
(富山市)



安達 陽子
(砺波市)



松本 昌子
(魚津市)



牛島 辰馬
(砺波市)



横堀貴美子
(射水市)



南部 祥雲
(高岡市)



熊野 幸子
(砺波市)



木村 正和
(南砺市)



中林 雅代
(富山市)



笹波 美恵
(高岡市)



中山朱津子
(射水市)



床 サユリ
(高岡市)



笹川むもん
(南砺市)



千代猪
(小矢部市)



中嶋外志男
(南砺市)



草月流富山県支部「秀抱会」
会長 梅崎秀鈴



高瀬神社注連縄奉納講のご案内

注連縄奉納奉告祭

日時 十二月二十日(日) 午前十一時

「注連縄奉納講」は、大神様の御神徳に感謝し、年末に注連縄のかけ替えを行っています。注連縄は、稲わらを用い、奉賛者の願い事を記した用紙を一緒に編み込んで大神様の更なる御加護が戴けるよう祈念して奉納します。



◆ 一口 一万円

◆ 締切

令和二年十月三十一日

◆ 奉賛者名、願意を記入した用紙を注連縄に編み込んで、諸願の成就を祈ります。奉納者名は社頭に掲示します。

◆ 申し込み方法

申し込み用紙をご記入になり、社務所へお申し込み下さい。

※申し込み用紙については社務所へお問い合わせ下さい。

奉 献

祈願 (上記以外)

()

()

()

()

高瀬神社注連縄奉納講

新年初祈禱のご案内

〜一年の計は元旦にあり〜

福の神・結びの神様であります大国主命(大国様)をお祀りする高瀬神社では、「新年初祈禱」を行っております。新しい年も事故・災難や病氣・怪我無く、家族の「絆」がより強く結ばれ、幸せに過せるよう、年頭にあたりお参り下さい。

・ 内 容 家内安全(開運招福) 諸縁結び
商売繁昌(事業繁栄) など

・ 期 間 節分の頃までにご参拝下さい

午前九時から午後四時三十分まで

(元旦は午前零時から午後六時頃まで)

・ 受 付 ご祈禱入口からお入り下さい

お入り下さい

・ 祈禱料 一祈願五千円より

(ご志納願います)

ご祈禱をお受けになり、

一年間清々しくお過ごし下さい。

— まず大国様に初詣 —



※新型コロナウイルス感染症対策の為、マスク着用・手指の消毒の推奨・人数制限等を実施致します。ご協力賜ります様お願い申し上げます。

※また恐れ入りますが、発熱・風邪の様な症状のある方は、ご参拝をお控え下さいます様、ご協力願います。

七五三詣(数え年)

本年は次の通りです。

- 7歳(女子) 平成26年生
- 5歳(男子) 平成28年生
- 3歳(男女) 平成30年生

※10月1日より11月末日まで、毎日午前9時より午後4時30分まで受け付けております。
※祭典・結婚式等の行事と重なる場合がございますので、社務所までお問い合わせ下さい。

戌の日(安産祈願)

令和2年

9月4・16・28日
10月10・22日
11月3・15・27日
12月9・21日

令和3年

1月2・14・26日
2月7・19日
3月3・15・27日
4月8・20日

腹帯のお祝いも行いますのでご持参下さい。

令和二年「初詣献灯」の御案内

当神社では「初詣献灯」を実施しております。本行事は、初詣期間中に正参道両側に「提灯」を掲げ、来る新年が更なる輝かしい一年となるよう、尚一層の御神徳を授けて戴くことを願って奉納するものです。
一、「初詣献灯」は正月七日まで、境内等参拝者道筋に献灯いたします。
一、「初詣献灯」は、それぞれ正面に希望の芳名(会社・氏名等)を記入いたします。

- 一、献灯者の家内安全・商売繁盛の祈願祭を奉仕いたします。
- 一、献灯初穂料は、一基につき 金壹萬円御志納願います。
- 一、申込締切 十一月三十日までにお申込下さい。

※記載芳名 例(約八文字)

一、会社

南砺市 株高瀬
高瀬産業株式会社

二、個人

高瀬 高瀬太郎
高瀬 太郎

令和3年 厄年・身祝一覽

〔厄年〕 数え年

	前 厄		本 厄		後 厄	
男	24歳	平成10年(寅)	25歳	平成9年(丑)	26歳	平成8年(子)
	41歳	昭和56年(酉)	42歳	昭和55年(申)	43歳	昭和54年(未)
	*60歳	昭和37年(寅)	*61歳	昭和36年(丑)	*62歳	昭和35年(子)
女	18歳	平成16年(申)	19歳	平成15年(未)	20歳	平成14年(午)
	32歳	平成2年(午)	33歳	昭和64年(巳) 平成元年(巳)	34歳	昭和63年(辰)
	*36歳	昭和61年(寅)	*37歳	昭和60年(丑)	*38歳	昭和59年(子)

※数え年とは、満年齢に誕生日前には2歳、誕生日後には1歳を加えた年齢です。
※*…この年を厄とする地域もあります。

〔身祝〕 数え年

	年齢	生まれ年
還暦	61歳	昭和36年(丑)
古希	70歳	昭和27年(辰)
喜寿	77歳	昭和20年(酉)
傘寿	80歳	昭和17年(午)
米寿	88歳	昭和9年(戌)
卒寿	90歳	昭和7年(申)
白寿	99歳	大正12年(亥)

※男女ともに祝います。

〔表紙写真〕 ユズリハ

社報バックナンバー
当神社ホームページで
ご覧頂けます。

各種お問い合わせにつきましては、
社務所へご連絡下さい。
(〇七六三) 八二一〇九三三

○祝詞箱
氏子
大和 秀夫 殿



○作品「アマビエ」
人形作家
横堀貴美子 殿



○作品「大國主命」
人形作家
中林 雅代 殿



発行日 令和二年九月十三日

発行所 越中一宮 高瀬神社社務所

〒931-0252
富山県南砺市高瀬29-1

TEL 0763-82-0933
FAX 0763-82-3304

編集人 魚岸一弥

印刷所 牧印刷株式会社



いつも幸せを祈ってきたこの場所で 今日、結婚します。
どうか神様 これからも私たちを見守っててください。

一日一組のプライベート空間

◆◆ 新参集殿 ◆◆

すべては一組の新たな夫婦の幸福のために



あなたの人生に、神社がある。越中一宮高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社 🔍 検索